

琉球大学学術リポジトリ

Thoracic manifestations of adult T-cell leukemia/lymphoma on chest CT : difference between clinical subtypes

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: University of the Ryukyus 公開日: 2021-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Yogi, Satotko, 與儀, 聡子 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/48279 |

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

| | | | |
|--|---------------------|-------------|-------|
| 報告番号 | 課程博 * 第 号 論文博 | 氏名 | 與儀 聡子 |
| 論文審査委員 | 審査日 | 令和元年 9月 12日 | |
| | 主査教授 | 加藤部 謙之輔 | |
| | 副査教授 | 福嶋 卓也 | |
| | 副査教授 | 河吉 幸男 | |
| (論文題目) | | | |
| <p>Thoracic manifestations of adult T-cell leukemia/lymphoma on chest CT : difference between clinical subtypes (胸部における成人 T 細胞白血病/リンパ腫病変の CT 所見 : 臨床病型の違いを中心に)</p> | | | |
| (論文審査結果の要旨) | | | |
| <p>1. 研究の背景と目的 成人 T 細胞白血病・リンパ腫 (adult T cell leukemia/lymphoma : ATL) は human T-cell leukemia virus type-1 (HTLV-1) が原因ウイルスとなって発症する T 細胞系腫瘍である。ATL は臨床病型としてくすぶり型、慢性型、リンパ腫型、急性型にわけられる。リンパ腫型、急性型は非常に予後が不良であるが、くすぶり型や慢性型は比較的予後がよく、くすぶり型、予後不良因子のない慢性型は無治療経過観察が可能である。過去に、ATL の肺野所見の報告はあるも、臨床病型で比較した論文はない。今回の研究目的は、ATL の胸部 CT 所見を詳細に検討し、さらに病型分類で比較することである。</p> | | | |
| <p>2. 研究方法 今回の研究では、リンパ腫型/急性型を aggressive group、くすぶり型/慢性型を indolent group と分類して、胸部 CT 所見を群間比較した。また、indolent group のうち急性転化を来した症例の胸部 CT 所見についても評価した。</p> | | | |
| <p>3. 結果および考察 過去の報告では ATL の胸部 CT 所見で最も頻度が高いのはすりガラス影とされていたが、今回の検討の結果ではリンパ節腫大が最も多く見られた。また、急性転化後の胸部 CT でもリンパ節腫大が最も多く見られたが、こちらは過去の報告と一致した。肺野所見に関しては aggressive group で indolent group よりも多彩な陰影がみられ、すりガラス影、気管支血管束肥厚、気管支壁肥厚、小葉間隔壁肥厚の所見が有意に高頻度に見られた。一方で、気管支拡張は aggressive group より indolent group で頻度がわずかに高く見られた唯一の所見であった。気管支拡張は HTLV-1 キャリアの胸部 CT でも主要な異常所見の一つとして知られている。indolent group のみならず aggressive group でもほぼ同程度の頻度で気管支拡張が認められた点から、気管支拡張は ATL の病勢の影響を受けない、HTLV-1 感染そのものが引き起こした所見である可能性も示されたものと思われる。</p> | | | |
| <p>4. 研究の成果の意義と学術水準 今回の論文の新規性としては、ATL 患者ではリンパ節腫大が最も高頻度に認められ、aggressive type では indolent type よりリンパ節腫大や肺野の異常陰影がより高頻度に認め</p> | | | |




られる、ということであり、今後のATLの診療においても一定の臨床的価値があるものと思われる。

以上の結果から、本論文は学位論文に十分値するものと判断した。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。

(別紙様式第8号)

最終試験結果の要旨

| | | | | |
|---|-------|---|----|-------|
| 報告番号 | *課程博第 | 号 | 氏名 | 與儀 聡子 |
| 論文審査委員 | 審査日 | 令和元年 | 9月 | 12日 |
| | 主査教授 | 加留部 謙之輔  | | |
| | 副査教授 | 福地 卓也  | | |
| | 副査教授 | 國吉 幸男  | | |
| <p>(最終試験結果の要旨)</p> <p>最終試験は口頭による公開討論によって行い、以下の件について確認した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 提出論文の内容、意義について十分に把握していること。 2. 研究の目的と方法について熟知していること。 3. 研究成果について正しく理解していること。 4. 関連研究の文献をよく把握していること。 5. 研究結果の展望について確かな見識を有していること。 <p>審査の結果、これらに関連する質問に対して十分満足する回答が得られたため、本学大学院博士課程を修了するに値すると判断し、最終試験は合格とした。</p> | | | | |

- 備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書とすること。
 2 *印は記入しないこと。